

カイロ・オペラ座に初の日本人指揮者 吉田裕史さん

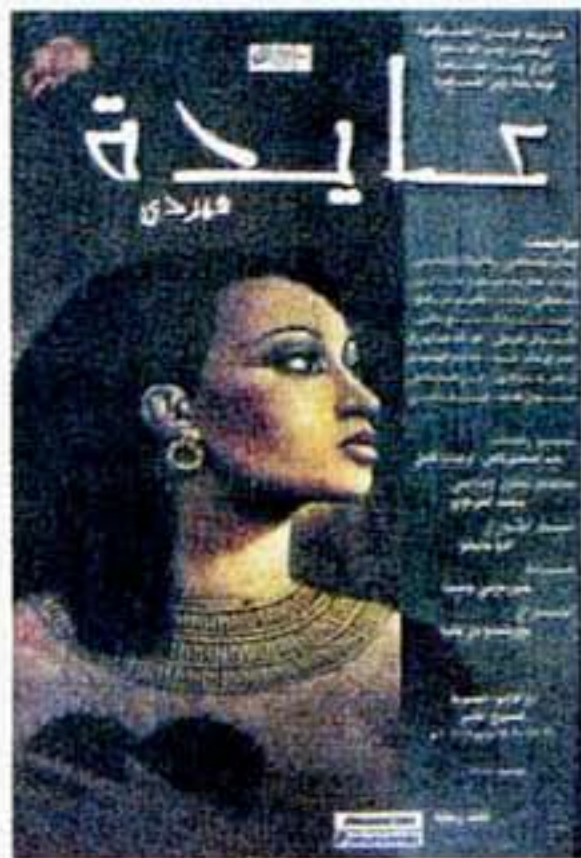
カイロ・オペラ座でのオペラ・アイーダ公演でリハーサルをする吉田裕史さん
(公演初日前日の21日夜)

古代エジプトを舞台にしたイタリアオペラ「アイーダ」(ヴェルディ作曲)を、日本人指揮者が初演の地、エジプト・カイロで指揮し、大喝采を浴びている。本場イタリアで研鑽を積むオペラ指揮者、吉田裕史さん(38)。「ゆかりの劇場で日本人として初めて指揮をとることを光栄に思う」と語る吉田さんは、ローマ歌劇場が夏の風物詩として古代ローマ遺跡「カラカラ浴場」で催す屋外公演の指揮者にも抜擢が決まっている。

「アイーダ」に総立ち

「もっと鋭く!」。厳しい要求の後、満面の笑みを浮かべて投げキス。国立カイロ・オペラ座での公演初日(22日)の前夜も、吉田さんはリハーサルを続けた。のんびりとしたエジプト気質のオーケストラが、血のたぎるヴェルディ独特の鋭い音に変貌してゆく。

1869年にこけら落としされたカイロ・オペラ座。当時の支配



カイロ・オペラ座のアイーダ公演のポスター
(アラビア語)

オペラ・アイーダ

イタリアの偉大な作曲家ジョゼッペ・ヴェルディ(1813~1901年)作曲。1871年初演。古代エジプトの若き將軍ラダメスと、とらわれの身にある敵国エチオピアの王女アイーダの悲恋の物語。ラダメスへの愛と祖国への忠誠心の相克に苦しむアイーダの姿や、ラダメスに思いを寄せるエジプト王女アムネリスとの三角関係が劇的に描かれる。凱旋の場面やバレエも織り込まれ、壮麗なグランドオペラの代表作となっている。

カイロ・オペラ座は1970年代に焼失し、日本の経済援助で80年代末に再建された。

カラカラ浴場

古代ローマの代表的な浴場の遺跡。3世紀にカラカラ帝(188~217年)らによって建設された。中央浴室群の周りに庭園や遊戯施設などがある。



夏には「カラカラ浴場」進出

者、イスマイル・パシャが「エジプトを舞台にしたオペラを」と、ヴェルディに作曲を委嘱したアイーダは、この劇場にとっても十八番の演目だ。注目の初日、地元歌手への最良客も多い

中、吉田さんはカーテンコールでひととき大きな拍手を集め、2日目はスタンディング・オペレーションに。25日に最終日を迎えるが、すでに「成功」の評価を手にしたといっ

吉田さんは東京音楽大学在学中に、ミラノ・スカラ座など名門劇場でも歌ったソプラノ歌手、東敦子さん(1999年死去)との出会いを通じてオペラ指揮者を志し、二期会の副指揮者などを務めた後、99年、文化庁派遣芸術家在外研修員として渡独。2002年、五島記念文化賞オペラ新人賞受賞を機にローマに拠点を移した。

「一番怖いのは聴衆」

ローマ歌劇場に「アシステンテ」(研修生)として入り込み、「それこそ何でもやる」(吉田さん)中で、歌手やオーケストラとの信頼関係を築き上げた。それがこの歌劇場のエルナーニ総裁の耳に入り、「試されるようになった」(同)。トリエステ・ヴェルディ歌劇場でのローマ歌劇場バレエ団公演(06年)の指揮などを次々と成

功させ、ついにカラカラ浴場で8月に催されるオペラ「道化師」(レオンカヴァッロ作曲)の指揮を、総裁直々の指名で任された。

ローマ時代の公衆浴場跡であるカラカラ浴場での屋外公演は1937年から続く夏の風物詩(崩落の危険のため93~02年は中断)。通年のオペラ・シーズンとは切り離されているとはいえ、現役の著名指揮者も出演する水準の高い公演だ。

「一番怖いのは聴衆です」。ローマ歌劇場のオペラ公演を振るのはアジア人として初の快挙だが、耳の肥えた地元のファンを魅了できるのか。吉田さんは「身震いする思い」と語る。だが、持ち前のバイタリティーでチャンスをもたせてきた吉田さんが、イタリアで本格的なオペラ指揮者として認められる日は近いはずだ。

(カイロ 村上大介、写真も)



吉田裕史さん指揮のオペラ・アイーダ第2幕第2場の豪華な凱旋の場面で展開されたバレエ
=20日のカイロ・オペラ座でのリハーサル